

会 議 録

会議の名称	令和3年度第2回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 子ども・子育て会議
開催日時	令和3年5月20日(木) 午後3時00分 開会 ・午後5時00分 閉会
開催場所	川越市環境プラザ 3階 研修室
議長(委員長・会長)氏名	平野方紹会長
委員出欠状況	出席：15名 平野委員、鈴木委員、田畑委員、川口委員、高倉委員、 小寺委員、大木委員、山本委員、田村委員、長峰委員、 岡野委員、伊藤委員、崎委員、三谷委員、圓岡委員 欠席：5名 宮島委員、岡田委員、山田委員、浅見委員、石川委員
関係者	おがやの里しもだ保育園 下田俊郎園長 ひかりの子認定こども園 内田晃園長 ルンビニ幼稚園 イテル武田抄子園長
傍聴人	7人
事務局職員職名	こども未来部部長、 こども未来部副部長(保育課長)、 こども育成課課長、こども育成課副課長、 こども家庭課課長、こども家庭課主幹、 療育支援課課長、健康づくり支援課課長、 こども政策課課長、こども政策課副課長、 こども政策課副主幹(2名)、こども政策課主査、 こども政策課主任(2名)
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 議題 (1) 川越市公立保育所のあり方(案)について (2) 川越市保育施設等の整備状況について(令和3年度整備分) (3) その他 4 その他 5 閉会

配布資料	<p>(別添のとおり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・令和3年度第1回川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 会議シートでの質問及びご意見 (資料1) ・川越市保育施設等の整備状況について (令和3年度整備分) (資料2) ・送迎保育 (川越市保育ステーション) の概要 (資料3) ・アンケート調査の実施について
会議要旨	<ul style="list-style-type: none"> ・川越市公立保育所のあり方 (案) について 保育所、認定こども園、幼稚園の施設区分ごとにヒアリングを実施した。また、ワーキングチームの活動報告及び会議シートでの意見を踏まえ、討論が行われた。 また、アンケート調査の実施について、ワーキングチームから報告があり、実施について了解された。 ・川越市保育施設等の整備状況について (令和3年度整備分) 幼保連携型認定こども園の設置について了解された。 ・その他 送迎保育事業の実施について報告があった。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3 議題</p> <p>※会議録ではそれぞれ以下のように表記する。 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会 (川越市子ども・子育て会議) → 分科会</p> <p>【議題(1)】川越市公立保育所のあり方(案)について ◎保育所、認定こども園、幼稚園の施設区分ごとに関係者ヒアリングを実施した。1施設15分(発言時間10分、意見交換:3~4分)で実施。 ◎事務局より資料1、ワーキングチームより活動内容が報告され、出席者による討論が行われた。 ◎ワーキングチームからアンケート調査の実施について、資料提出があり、アンケート調査の実施について了承された。</p> <p>内容は下記のとおり。 【ヒアリング概要説明】 ・関係者の声を反映したいのでヒアリングを実施する。施設区分として、保育所、認定こども園、幼稚園の園長に来ていただいた。 ・10分程度でお話ししていただき、3~4分で皆様から質問をいただきたい。 ・それぞれ川越市の保育や現状についてご意見を賜りたい。</p> <p>【関係者ヒアリング】 ■施設区分：保育所 ・社会福祉法人立保育園は、認可保育園、民間保育園、私立保育園などといわれ、認可を受けて税金により運営されている。 ・川越市では1969年に民間保育所ができ、約10年間で8園できた。それから20年以上は8園のままであり、公立保育所に比べ民間保育所は少数だった。2000年代に入り、女性の社会進出などにより民間保育所が増え、現在は36園ある。</p>
おがやの里しもだ保育園園長	

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6年前、全国で保育所は約36,000園あり、その中で民間保育所は68%だった。現在は、認定こども園、地域型保育事業などでもできさらに増えているはずである。民間保育所が増えてきたこの状況について、私たちは保育に携わってきたものとして、とてもうれしく努力してきた甲斐があると報われた気がしている。 ・ その反面、危惧していることもある。民間保育所では解決できないことが起こっている。そのくらい子育ての家庭支援の難しさを感じている。公立と民間保育所の立場は違うが、両方が存在し成り立つことが最適だと思う。 ・ 少子化の急速な進行により今後は大変な時代になる。待機児童がないのは定員割れとなることである。民間保育所は、蓄積したノウハウを用いて質の高い保育を維持しながら運営していく覚悟が必要となる。今後、お互いの良さを生かし、公立の役割、民間の役割を明確に出し、子どもたちの未来を守る保育をしていく必要を感じている。 ・ 2016年に「保育園落ちた日本死ね」が話題となった。待機児童の問題が取り上げられ、保育士の給料が低いことや仕事の大変さが話題となった。保育士を志す高校生は進路相談で大変だからやめておけと言われる始末である。保育士の人材不足も起きている。保育所の年間予算の約70%は人件費である。なかなか給料があげられない。 ・ 児童福祉の制度は老人福祉制度の後追いをしているとみられる。介護保険制度は応益負担で通所した日数に対して国から運営費が支払われる。児童福祉施設は応能負担で、在籍人数に対して運営費が支払われる措置制度である。今後、介護保険制度のように措置制度から外されることがあるのではないかと、全国の自治体の財政が圧迫されると、国の制度変更で保育に大きな影響がある。このような脆さをもっている。 ・ 社会の変化で子どもの育ちに違和感を感じる。家庭の養育力の低下、落ち着きのない子、無気力な子、貧困など様々な問題がある。障害者手帳はないが、何か成長に違和感がある、いわゆる気になる子が増えている。国の定めた保育士の配置基準では保育ができないケースが増えており、追加して保育士を配置するケースが出ている。こうした社会情勢に対応していかなくてはならないが、民間保育所の基盤は脆弱である。国の制度変更により振り回されるか心配である。 ・ 公立保育所では100名以上障害のある子が在籍している。もちろん、民間保育所にもおり、入園する前から分かっているケースもあるが、成長と共に分かるケースもある。障害の中には通常保育とまった

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>く逆の対応を迫られ、保育士が頭を抱えるケースもある。その対応に悩み、そのほかの子の保育に支障が出ることもあり、受け入れ体制に限度がある。障害のある子を公立園で対応していただいていることに対しては、本当に助かっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所は20園あり、人材が豊かである。当園でも、離乳食のことで研修会に来てもらって話を聞いたことがある。その元保育士の話はいろいろと参考になった。ほかにも、絵本や自然に詳しいなどいろいろな保育士がいる。ただ、その方たちの能力が十分に生かされているかと思うと疑問である。保育現場を活性化させる、生かせる職の制度はあるのか。どこも同じで特徴を出さないのが公立保育所だと思うが、その中に眠っている人材がおり、もっと活用してもらいたいと思う。 ・社会が保育所に求める役割は増している。働く家庭への支援はもちろん、地域の子育て家庭支援も含めたものになってきた。より広範囲で高い専門性が必要となってきた。公立園が持つ専門性を生かすことが必要だと思っている。 ・保育は、養護と教育を一体化したものであり、遊びや日常生活の中で、自分の五感をフルに使い、将来を生き抜く力や自己肯定感を育む。これから21世紀を生きていく子どもたちに一番必要なものである。 ・当園では目標を「昼間の家」と位置づけ、家庭のように職員全体が関わって保育している。調理員も同じである。子どもと一緒に食べて、子どもが調理員にごちそうさまと手渡し、いろいろな会話が生まれている。うれしいと思ったのは、子どもが調理員全員の名前を知っていることである。家でもそういった話をしているようである。調理員も子どもの成長をよくみている。保育するのは保育士だけではない。すべての職員が子どもの成長を見守っている。多くの大人に見守られて成長していくことが将来を生き抜く力や自己肯定感を育てる。地域に子どもの居場所が減っている現在だからこそ、幼児施設の役割が重要になってくる。公立保育所にもこうしたことを望む。 ・これからは地域子育て支援事業のように、地域における子育て支援のメニューや充実が図られると思う。子育て支援センターではいろいろ行っているが限界を感じている。保育所に来ない人をどうしたら良いか考えたが、ポスティングしか思いつかなかった。保健師、児童委員、保育士、支援センターなど地域で子どもに関わっている方が情報共有する施設があれば良いと思う。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>○質疑応答</p> <p>・公立と民間両方が成り立つことが望ましいとおっしゃられたが、どのようにすれば成り立つと考えるのか。</p>
おがやの里しも だ保育園園長	<p>・民間保育所は基盤が弱く、保育士の人数がかかるところまではなかなか手が回らない。公立保育所は、どっしりと構えているいろいろなことに対応できるという良さがある。また、20園という大きな基盤であるため、いろいろな人材が集まりやすいところや年ごとに人数が変わらないことが良さである。民間保育所も公立保育所も少子化になれば人数は減ると思い、大変だと思っている。その中でお互いに良さを生かしていけたら良いと思う。</p>
委員	<p>・公立保育所を民営化しようとか減らしていこうという流れが全国的にあると思うが、一つの理由は財政問題だと思う。全国で多くの公立保育所が民営化された結果、保育士の給料が安くても良いというような流れができてしまったと思う。安いから資格があっても保育士にならないという流れができていないのかと考えており、保育士の募集や定員どおりに配置することの苦勞があれば聞かせていただきたい。また、職員の給料や待遇が十分と考えているかどうか伺いたい。</p> <p>・令和2年4月1日時点の統合保育の実施状況は、公立保育所では107人、民間保育所では9人となっており、民間保育所ではなかなか課題を抱える子に対する対応は困難かと話を聞いて思ったのだが、財政状況や募集に合わせて大変な点があれば教えていただきたい。</p>
おがやの里しも だ保育園園長	<p>・保育は本当に素晴らしい仕事である。未来の子どもを育てる仕事で、自分自身も成長する仕事だと思っている。若い人たちのやる気を一緒に共有してやっていきたい。自分たちの保育を理解してくれる人に来てもらって一緒にやっていきたい。給料面は物足りない。処遇改善などいろいろあるが、一部の人に対してであり、手当や補助はいつかなくなるものであり、なくなったらどうなるのか。東京などで住宅手当が出ているが、制度も時限的なものなので、そのような中に置かれているのは非常に怖い。</p> <p>・民間では障害児を預かっているところもある。非常に重い障害があると、保育士の資格があっても、障害児に関係する資格がある保育士が少ないのでなかなか受け入れられないところもある。その中で手をあげると、本当に大変な数が来ると思うので、そこまでは施設の規模</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
ひかりの子認定 こども園園長	<p>としてできない。本当はもっとやらなくてはいけないとは思うがなかなか手があげられない。</p> <p>■施設区分：認定こども園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、先生の仕事が増えている。保育者の給料が本当に低いと感じている。大学の非常勤講師をしていたが、生徒に就職先を選ぶにあたり、公立幼稚園、公立保育所、社会福祉法人立の保育所、学校法人の幼稚園の順があると聞いた。学生にとって給与の条件がとても大事だとつくづく感じている。 ・市がまとめた資料について読み、方向性としてはこのような方向性だろうと考えている。 ・当園では17、8年前までは、160名くらい在籍していた。認定こども園になった6年前は、120名くらいだった。このままいくと間違いなく減少していく。減少してきても、給料の条件などを超えて、園の雰囲気などを理由に勤務してもらっている先生もいる。 ・自己肯定感が非常に問題になっている。また、非認知能力は、友達と遊べる力、必要なものを必要と伝える力、友達が困っているときに友達に共感して手助けをしてあげる力などのことで、3歳から育つかというところではない。実際には1歳児や2歳児から関わらないと育っていかないというのがみえてきている。子どもの発達上の問題に早くから働きかけていきたいと思い、認定こども園になった。認定こども園は、保育所と幼稚園のちょうど中間の施設である。当園では、認定こども園になる10年前から2歳児クラブを行っていたので、初めて2歳児を預かる感覚はない。3歳より小さい子どもを一時的に預かったり、1週間に数回弁当を食べて帰るようなこともやっていた。 ・少子化は全国的な問題であり、都内でも10年、15年で少子化が始まるという話が既にでていいる。公立保育所と公立幼稚園が一体になった認定こども園もあると記事も目にした。川越市の中でもそうなることは否定できないし、そういった現実を受け入れていくべきであると考えている。 ・公立保育所のあり方について意見を出していくと思うが、障害児の受け入れに特化していくことはとても大事なことである。当園でも1名受け入れており、年少や年中の時は、保護者に協力いただき、保育内容によっては保護者にサポートしてもらっている。年長になると行動力が出るため、保護者と担任と園長との話し合いの中で保護者のサポートもお願いし、毎日来ていただいている。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的には加配しないと保育できないが、フリーの保育士にお願いすることもできないし、募集してもなかなか集まらない。もし別の園で、あるいは、ほかの保護者から、同じような障害児の受け入れができるかといわれるとできないといわざるを得ない。 ・園で障害児を預かっていてどのようなサポートが必要かを提案していただけるような、公立保育所の一つの機能ができれば、市内の幼い子どもたちにとってプラスになるし、保護者にとっても一つの安心材料をつくることにつながる。市の公立保育所のあり方について賛成の立場で読ませていただいた。 <p>○質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所のサポートで示されている案が賛成であるとした具体的な箇所を教えてください。
ひかりの子認定 こども園園長	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回の資料2-10「公立保育所の運営について」で、希望的な観測として、そのように読み取った。 ・公立保育所の運営については、公立保育所だけを考えるのではなく、場合によっては、幼稚園、認定こども園、民間保育所の考えを受け入れていただきながら、今後は運営すべきであると考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児の受け入れをされている一方で、公立保育所が障害児保育に特化することが良いとあったが、今107名障害児をみているとして、20園でみると各園で5名いると仮定する。これが10園になったとすると、各園に10名いることになる。60名定員だと6人に1人が障害のある子どもとなる。 ・特化するとなると、希望がある方がすべて公立にということになると、本来の統合保育の良さである、いろいろな子どもがいて理解し合うということが遠くなっていく。保育所というところで見ると何人くらいが適正なのか。数の意味で特化ということか心配して質問した。
ひかりの子認定 こども園園長	<ul style="list-style-type: none"> ・特化という意味は、質問をされた内容と変わらない。民間で障害児の受け入れには、保育者がすぐに必要となり、補充をどうするかということが課題になる。その点では、公立の方が対応しやすいのではないかと考えている。 ・何人が適正かということについては、子どもの状況にもよるし、保育士の能力にもよるため、一概にはいえないが、無理のない範囲、適

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
ルンビニ幼稚園 園長	<p>正な範囲内ということしかできない。</p> <p>■施設区分：幼稚園</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園を代表してきているが、学校法人立の幼稚園は、私立学校であり、学校ごとのカラーが異なるため、私見も交えてお話ししたい。また、公の利益を考えながら話をさせていただきたい。 ・市の資料を拝見し、気になった点があり、もっと知りたいと思った点をお話ししたい。資料2-3「保育の状況」にある待機児童数の推移について、常に3歳から5歳児については空きがあるという話をずいぶん前から聞いていた。全体で待機児童が2名になったということは、0歳から2歳の需要が減ったと想像している。幼稚園は3歳以上を預かる施設であるため、データとして物足りないと感じる。幼稚園としては、対象の児童が減っているといえる。 ・就学前児童の施設の利用状況について、2歳児の0.8%の部分は、幼稚園の利用者は満3歳児を指しているのか。私学助成の幼稚園であっても預かり保育を満2歳児から行っている施設もあり、それをデータとして入れているのかが気になった。 ・資料2-4「公立保育所の状況」で保育士の平均勤続年数は、公立保育所が長いのは当たり前で、民間で勤続年数といわれるとその園にいた勤続年数になってしまう。どれだけの経験値があるのかということでこのデータを使っているの、勤続年数より経験年数の方が知りたいと思った。 ・資料2-5「保育所関係予算の推移」の投資的経費について、説明があったほうが良い。 ・子どもは1度教えたらすぐにはできるようになる存在ではない。教えたらできるかということでもない。教えながら、子どもが失敗を繰り返しながら、先生や周りの大人にそれで良いと、そういうことにしてよかったと、よく考えてできたねといわれ、応援されながら、自分の歩いていく道を子どもなりに決めていくのが子どもの育ち方であると思う。そのためには、相当な時間と経験が必要だと思う。 ・幼稚園は3歳から預かるので、家庭で育てている生徒を預かってスタートする。保育所も3歳から入る子もいる。そうなった時に、子どもは1歳から社会性獲得のためのトレーニングをしていかななくてはならない。たくさんの量を与えられ、たくさんの経験をして、学んでいかななくてはならない中で、コロナもあり、孤立化する家庭が、3歳

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>未満児の養育に関して本当に力が及ばないことがたくさんある。それを看護してあげたいという認定こども園園長の話や私たちも子育て支援という立場で家族の応援をしているが、正直まったく足りていない。今の子どもたちをみているといろいろなことが本当に遅くなっている。ただでさえ時間のかかる子どもたちの経験値を広げる活動がどんどん後手に回っている。そうすると、小学校生活にも尾を引いていく。どれだけ子どもたちに投資していくかということは、川越市としてもよくよく考えていただきたいと思う。</p> <p>・提案したいのは、人材を流動的に考えていただきたい。公立を減らしていくことは仕方ないこととして、今まで蓄積されたノウハウをもった方は、母数が減れば将来減ってしまう。子どもが減ったから良いかというところではない。子どもの育ちはこれからどんどん後ろに下がっていくので、もっとノウハウが必要になってくる。その時に経験値がいる方が減るような行政をしてしまったら、とんでもないことになるのではないかと思うし、私立幼稚園や認定こども園もそうだと思うが、その分キープできるような仕組みづくりがされなければこの先未来はない。待遇なり人材の後押しがなかったら、子どもたちの将来は大変難しいと思う。仕事をする方が多くなって、家庭にいる時間が短くなれば当然、家庭で行っていたことを保育施設が行うことになる。当然、親が子どもを育てる力としての受け持つ量が減り、そういった大人が増えていく。その中で、全てを公が担うのであれば話は別だが、そうではないので、きちんと必要な経験を後押しできる親がいなかったら、これはとんでもないことになる。そのため、保護者支援の部分もしかり、先生たちが安心して働けるような支援もしかり、ぜひ考えていただきたいと思う。</p> <p>・特別支援の話は同じで、配慮が必要な子どもは増えており、当園でも県に申請できる子どもは3名だが、できない子どももいる。それを加えたら5、6人いる。50人ほどいる当園でもこれだけお預かりできている。そういう幼稚園も実際ある。配置基準が難しいので、私学助成であるため園側の裁量もあるにはあるが、正直厳しい。職員を募集して入ってくれば受け入れができるが、入らなければお断りをすることもある。そういったケースがあるので、保育を守るという意味において、財政的な支援についても、いろいろなアイデアを出していただきながらぜひお願いしたいと思う。</p> <p>・公設民営ということも東京都などではよく聞かれるので、何とか公立の人材と私立の人材ともっと交流できる形をもっと積極的になさ</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>るのが良いと考える。</p> <p>○質疑応答</p> <p>・ 3歳未満の親の力が及ばないという話があったが、具体的にはどういったことなのか。また、保育施設の子育ての機能を向上させると、一方で親の子育て力が低下すると受け止めたが、保護者に対して子育て力を高められることとして感じているものがあれば教えていただきたい。</p>
ルンビニ幼稚園 園長	<p>・ 例えば、3歳児になる前に、30年前であればおむつを付けてくる子は1～2人であったが、今は半数以上である。当然ながら、排せつの指導をしなければならない。3歳以上であればこれまでしないでできていたことを今はしなければならない状況になっている。それだけ時間が取られるということである。</p> <p>・ 食事をひとりで食べることができない子どもが非常に増えている。運動能力についても、両足ジャンプできない子もたくさんいる。自分で衣服の着脱ができない子もいる。これは保育所に行けば指導してもらえるからできるようになるが、親の育児力がないということである。そういった支援をしていくためには、子育てを楽しいと思ってもらわないといけない。その中で、こういう風にしたら子どもにあまり無理なくできるという話をしていかななくてはならない。信頼を得ながら行うためには、数と量が必要になるということである。子育て支援活動も時々単発でやるのでは全然意味がない。そこを結構しっかりやっっていこうとすると財源も必要になるし、時間も能力も必要になる。</p> <p>○事務局より資料1を説明。</p> <p>【事務局説明概要】</p> <p>資料1のとおり。</p> <p>○ワーキングチームより報告。</p> <p>【ワーキングチーム説明概要】</p>
副会長	<p>・ 5月13日（木）午後6時から7時45分まで、山本委員、崎委員が出席し、事務局を招いてワーキングチームの会議を開催した。ワーキングチームは分科会の議論を深めていこうということで、分科会に先立って論点を話し合っっていこうというのが主な趣旨である。分科会での方向性を導くものではないということをご理解いただきたい。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
	<p>・議論の中で、公立保育所をなくすという話ではなく、今後の児童数の減少もあるが、公立保育所としてどのような視点で、どのような役割を付して残していくか、そういった方向性が議論すべき点として重要であると確認した。委員から出た意見を紹介する。</p> <p>■ワーキングチーム会議での意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所のよさやメリットを見出して、残していく上での役割をもっと前面に出したほうが良い。 ・公立保育所だけではなく、民間でも保育に配慮が必要な子を預かろうということで全体で行っていく必要があるのではないかな。 ・発達に心配があれば公立で、心配がなければ民間というのではなく、民間でも対応していくことが必要であり、そうした対応により、園としての保育力が高まっていくのではないかな。 ・統合保育については、不安のある子を預かることができる民間の園数を増やしていくことが必要。そうしたことは、保育所でも幼稚園でも変わりはない。 ・公立保育所では、統合保育の経験が蓄積されており、ある意味市の保育の財産であると考えられることから、発達に心配のある子について、いつでも相談できる体制をつくり、公民の保育所、幼稚園、家庭で子どもをみている保護者に対しても門戸を開いていくのが良い。 ・児童発達支援センターと連携を取りながら、障害のある子どもや発達に心配のある子どもを預かれる施設を増やしていくことが必要ではないかな。 ・公立保育所はしっかりとセーフティネットの役割の中心となって担っていくことをもう少し打ち出したほうが良いのではないかな。 ・資料2-7「公立保育所の役割について」が今回一番ポイントなるところで、ここをもう少し詳しく書いても良いのではないかな。 ・保育所のみではなく、幼稚園を含めた共同での研修ができるようにするのも一つの方法である。 ・地域子育て支援拠点事業となると、親子での受け入れとなるため、関わる視点が保育の視点と異なる。そのための研修などを充実させる必要もある。 ・子どもの数の増減はコロナ後もどうなるか分からず、また少子化対策の結果で増えるかもしれない。公立保育所は子どもの数の増減調整という視点はあっても良いのではないかな。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>・結論として、大事なものは、公立保育所をなくすということではなく、当然ながら必要数を維持していくことが大事である。その中で公立保育所はどのような役割を果たすのか、施設は保育所、認定こども園などあるが、そこのリーダーシップをとる形で、様々な施設をリードしていくといった役割が求められるのではないかという意見も出た。</p> <p>・こうしたことから、公立保育所の役割である、資料2-7「公立保育所の役割について」が議論の焦点になっていくのではないかとの意見となった。</p> <p>○出席者による討論が行われた。内容は以下のとおり。</p> <p>【討論内容】</p>
委員	<p>・市から出された提案はあくまで提案であって、決まったことではない。今日話を聞いていて思ったのは、ヒアリングの関係者も決まったことを前提にという話も見受けられて、それは残念であると感じた。</p> <p>・それだけ大切な1歳から3歳の幼児期の大切さというのであれば、こういう保育施設をどのような形で市の中に展開していったら、子育てを強力にバックアップするか考えていかななくてはならないので、数ありきではないと私は思う。</p>
委員	<p>・保育の立場からだけではなく、保護者がどこまで保育のあり方を重要視するかの意識づけをこれまで以上に充実させていくことが大切になってくると思う。それをサポートする意味での保育のあり方が求められるのではないかと思う。</p>
委員	<p>・助産師をしており、妊産婦と関わることが多い。障害のある子どもに親が付き添っている話をヒアリングで聞いて、子どもと離れる時間も作ってあげなくてはいけないということを思った。</p> <p>・共通していたのは気になる子は増えているということだったので、困っている保護者にも視線を向けた形で、分科会で話し合っていければ良いと思った。</p>
委員	<p>・ヒアリングでは親と子の関わり方の話があった。企業が子育てについてどのような支援をしているか、各事業所の意識がもう少し高まると違ったものが出るのかと思っている。産後の育児休暇や残業、休日出勤等のあり方について、企業側がどのような理解を示すのかということも感じた。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・幼少期の関わり方というのがその後の成長に大きな影響を及ぼすので、大事な幼少期を一生懸命担っているヒアリングの関係者の話をありがたく聞いた。幼少期を保護者と過ごすのが本来の形であるので、そういった社会になることが一番良いことだと思う。そうではないところもあるので、市としてもお金と知恵を使っていたきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が子育てをしていた時は、民間と公立の両方の保育所を利用した。民間保育所が障害のある子を受け入れており、公立保育所に移った時に、障害のある子を先生が対応できていなかった。今は少し変わったのかという印象である。 ・ワーキングチームから出た意見で、公立と民間を分けない、どこにいてもどこに住んでいても同じサービスを受けられるようになると、子育てがしやすいと改めて思った。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリングでは障害のある子どもの受け入れに苦慮しているという話があった。園側の心配もあるが、スムーズに受け入れができて、どこの園でもスムーズに保育ができるような環境がとても望ましいと感じた。認定こども園の例では良い環境であるのは感じたが、特別な例であって、本来であれば受け入れられる度量があって、安心して預けられる環境が整っていけば良いと感じた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・民間に公立と同じことを求めるのは難しいということを痛感した。逆に、公立に民間と同じことを求めるのは趣旨や様々な保育方針が違うということもあるのかと感じている。 ・良い面を補完していくというのが川越市には必要で、必要数の維持というのが、公立保育所のあり方であると思っている。必要数はどれくらいあれば川越市で公立保育所の必要数を満たしているといえるのかというところが焦点であると、ワーキングチームの話も聞いていて思った。また、どのような役割を果たしていかなければならないのか、コロナ禍でもあり、外国人や障害児が増えて、リスクを負った子どももいる。公立だけで良いのかということもあるので、公立だけで担えないところをきちんと民間もサポートできる体制に引き上げていくという保育力の向上ということで、果たすべき役割があると改めて感じた。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本来は、市が果たすべき役割を民間に押し付けた歪みが今来ているのではないかと考えている。 ・民間保育所の財政基盤がほとんど補助金であるのだとすると、補助金を減らすことは大変問題があるのではないかとということと、古谷地区の小学校の廃校については、5年程度かけて進めてきているということだが、このあり方についての議論を5年越しで行うつもりなのかということ市に伺いたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所のヒアリングで、国の制度変更に戻り回されるということが印象的だった。就学に向けた幼保の違いがあるから、一元化したらどうかという話が、いつの間にか待機児童の解消、子どもを生んで働きなさいという話にすり替わってきている。 ・国の制度に戻り回されて子どもが置き去りにされたり、子育てしたい母親が無理にかりだされたり、他の委員もおっしゃるとおり、出産後の母子の体調や、看護休暇などの労働の制度も踏まえ、国の作った突発的な制度に戻り回されるのではなく、土台を掘り下げて考えて、子どもを生んだ家庭が選べると良いと感じた。 ・公立保育所の立ち位置は、子どもの数は増減があるので、含みの部分で調整役としてないといけないと思っている。 ・障害児については、保育所は働いていれば入ることができるが、保育の必要性がなければ、幼稚園で断られてしまうと、行き場がなくなってしまふ。親は気が休まらないと思われるので、働いていなくても3歳になったら預けられるような施設があっても良いのではないかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は市をまたいで幼稚園に通わせていた。子どもを育てるのが、行政の違いから難しさを感じていた。安心して親が子どもを預けられる環境になることが理想である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・団体で家庭訪問型子育て支援事業を行っており、生活保護世帯やひとり親世帯の子どもの受け入れ先として公立保育所に通園しているという話をよく聞く。公立保育所が地域でセーフティネットの役割を担っているのだと改めてヒアリングを聞いて思った。民間でも受け入れ難い実情も理解できた。 ・保育所に預けて働く親にとって、保育所が子どもを育て、保育所とのつながりが親を支えて親の育ちにつながる。幼稚園に入る在宅家庭は社会との接点がなかなか持てずに初めて子どもを幼稚園に預ける

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
委員	<p>ので、ヒアリングでも親の子育て力の低下という話があったが、地域で親を支える仕組みがまだ十分ではないと考えた。公立保育所のあり方として、地域の子育て拠点としての役割が重要であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日のヒアリング関係者の声は自営業者の声だった。自営業者の声がこの計画書の中に入っていないということが分かった。アンケートと共に、事業者の声も集める必要があると思う。それを関係者3人が訴えていったと感じた。 ・会議シートの質問に対する回答は、いつもどおりの市役所の回答である。まだ聞いていないとか、これからこの場で確認していこうとか、そういう形でも良いと思う。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の質問にあったどのように期間をみているのかという点について事務局から回答をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・古谷東小学校は、平成16年から内部で検討し、平成21年から統廃合の準備を進めているということで、4年ほどの方針を決定していった。これについては、個別の検討をしているが、今回は、市全体の公立保育所のあり方の大きな方向性を決めることであり、これについては、今年度中に分科会の中で決めさせていただきたい。今後は、その大きな考え方のもとに、それぞれの個別の施設について検討を始めるが、一律に何年ということではなく、その時の全体の状況、地域の状況や地域の方の考え、そういった声を聴きながら進めていく必要があるので、今の段階で何年と決めることは難しい。 ・公立保育所をすべてなくすということではなく、残していくという方向の中で、今このまま子どもが減少したらと考えた時に、25年後を人口の推移から見据えている。個別の施設については、地域の実情を踏まえた中で検討期間が決まっていき、市全体のあり方については、今年度中を目指している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金を減額することについてもそうなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・補助金の減額については、国の施設整備の補助金が入っているが、将来的にどうなるという方向性まで見えていないので、今の段階ではお答えすることが難しい。

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年基本的な方針を決めたとしたら、25年間で考えていくことになるので、その後個別の施設を行っていく。また、5年ごとに見直しを行う。 ・一般論ではあるが、通常統合する場合は、入園した子どもが卒園するまでというのが一つのパターンであり、そう考えれば5年くらいというのが一般的なルールである。 <p>◎ワーキングチームより資料「アンケート調査の実施について」を説明。</p> <p>【ワーキングチーム説明概要】</p> <p>資料「アンケート調査の実施について」のとおり。</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての利用者と職員に聞くことが理想であるが、集計の問題がある。ワーキングチームにお願いして検討し、1歳と3歳の全数を対象とする。意見でもあったが、できるだけ保護者や職員の声を反映させるように、かつ、負担の少ないようにと考えている。 ・形としては、この分科会として実施するアンケートになる。市が行って市が情報をもらうのではなく、この分科会で議論するために情報を提供してほしいという形で事務局にお願いして実施する。よろしいか。 <p>(異議なし)</p>
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・この形で進めることとしたい。 ・委員からも保護者の声をという意見があった。次回、保護者へのヒアリングを考えている。来てもらう方に配慮するため、日曜日の午後の開催としたい。 <p>【議題 (2)】</p> <p>川越市保育施設等の整備状況について (令和3年度整備分)</p> <p>◎事務局より資料2に基づき、幼保連携型認定こども園の設置について説明、出席者からの意見等なし。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議題・発言内容・決定事項
各委員	<p>【討論内容】 ・意見等なし、一同了解。</p>
各委員	<p>【議題 (3)】 その他 ◎事務局より資料3に基づき、送迎保育（保育ステーション）の概要について報告。</p> <p>【討論内容】 ・意見等なし。</p>
事務局	<p>4 その他 【事務局からのお知らせ】 ・意見・質問等がある場合は、本日配布している「会議シート」を、5月27日（木）までに事務局に提出。 ・次回の専門分科会（子ども・子育て会議）は、7月18日（日）で調整しており、時間と会場は調整中のため、追って通知する。</p> <p>5 閉会</p>